

聖書の祈りが私の祈りになる（新約編）

第10章 拡大する教会における祈り①



序論

神が既に与えてくださっているものを受け取る

ステパノの殉教に続いて起こった厳しい迫害は、クリスチャンたちをあらゆる方向に散らす結果となりました。ルカは、多くの場所で起こったに違いないことの代表例として、サマリヤにおけるピリポの働きと、ユダヤにおけるペテロの働きを書き記しています。クリスチャンが迫害に対して真摯な祈りで向き合った（例えば使徒 12:5）ことで、大宣教命令は、ルカが語っていない場所においても、祈りと聖霊の導きによって効果的に実施されていたのだと確信できます。「使徒の働き」は、このことについても少し示唆してくれてはいます（使徒 9:31、12:24、15:3、21:4、28:14 を参照）が、後半部分は使徒パウロによる異邦人宣教に集中しています。



神が既に与えてくださっているものを受け取る

クリスチャンたちが散らされていく中で、ピリポはサマリヤに行き、福音を語りました（使徒 8:5）。その結果、この町では素晴らしい信仰の覚醒が起こりました。悪霊が追い出され、奇跡が起こり、多くの人々が超自然的ないやしを体験しました。町中に大きな喜びが広がっていました。ところが、聖霊は、まだ誰にも下ってはいませんでした。

さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである（使徒 8:14-16）

これらの人々が救われていたことに異論の余地はありません。彼らは男女を問わず、信仰を持っており、洗礼

を受けていました（使徒 8:12,16 参照）。ペテロとヨハネは、これら新しくキリストを信じた人々が聖霊の約束から除外されているなどとは、全く思っていませんでした。ペンテコステの日に「**なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです**」（使徒 2:39）と宣言したのは、ペテロ自身だったからです。このペンテコステの体験は、ペテロとヨハネの上に新鮮かつ強力に留まっていた。彼らにとっては、新生したクリスチャンが聖霊に満たされないままに長期間いるということは、実質的に考えられないことでした。

これら新しくキリストを信じた人々が同様のペンテコステ体験に入るためには、どのような手段や過程を経れば良かったのでしょうか。聖書は簡潔な教えを提供してくれています。ペテロとヨハネは、**到着すると「人々が聖霊を受けるように祈った」（使徒 8:15）**とあります。ペテロとヨハネがそのように祈ったことは、決して小さなことではありません。彼らは、サマリヤのクリスチャンが「聖霊を受けるように」（積極的に受ける、手に入れる）祈ったのです。聖霊は既に与えられていました。ですから、お与えくださいという願いはなされていません。なるほど、ヨハネが次のように書いている時については、聖霊はまだ与えられていませんでした。「イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ注がれていなかったからである」（ヨハネ 7:39）。しかし、ヨハネとペテロがサマリヤを訪問した時にはもちろん、イエスは既に栄光を受けられ、聖霊もまさしく与えられていました（使徒 2:33）。サマリヤのクリスチャンに必要なものは、恵みに満ちたこの賜物をいただくために、彼ら自身が心に信じるということだけでした。

ペテロとヨハネの祈りは、手を置くことでなされました。神学者の中には、この実践は、とりわけ聖霊をいただくことに関しては、使徒たちに限定されていたと考える人たちもあります。しかしこの主張は、正体のよく分からないアナニヤという弟子が退けています。彼に与えられた、タルソのサウロのもとに行くようにという指示には、サウロがそれまでに祈っているということと、「アナニヤという者が入って来て、……自分の上に手を置く」（使徒 9:12）という情報が含まれていました。手を置くという働きは、選ばれた数名に限定されていたのではなく、様々な必要のために祈る多くの人々のためのものなのであり、聖霊に満たされたクリスチャンのためのものでもあり、それは当時も今も変わらないのです。

サマリヤ人が聖霊を受けた際にどのようなことが起こったかについては、聖書にすべてが記されているわけではありません。ただし、目に見える何らかのしるしが起こったことは確かです。「使徒たちが手を置くと御霊が与えられるのを見たシモンは、使徒たちのところに金を持って来て」（使徒 8:18）とあり、シモンが何か重要なものを目にしたことは、それを手に入れて利用しようとしているその不純な動機を秘めた目を見れば、疑う余地が無いからです（使徒 8:9-11,18-19 参照）。回心の後に聖霊をいただいている他の記事と照らし合わせてみると、サマリヤ人が異言で語り、神をあがめたたえる喜びで溢れているのをシモンが見たことが、きわめて明らかになります（使徒 2:11,10:46,13:52,19:6 参照）。

人がキリストを救い主として受け入れたなら、私たちは即座に、彼らが聖霊に満たされることに関心を抱くべきです。そして、与えることのできる神の力よりも、受け取る側の能力にこそ関心を抱くべきです。新しいクリスチャンがこの体験を味わうことができるよう祈る時には、信仰が高められたなら、神が、あらゆるクリスチャンに約束してくださっているこの賜物を与えてくださることを期待しつつ、彼らに手を置いて祈るのが適切なのです。